

セントラル短資オンライントレード株式会社

CASE FILE

急成長するFX市場で 安定した顧客サービスの提供を支える Oracle 10g RAC on Linux



個人投資家を対象としたオンラインFX取引（外国為替証拠金取引）で急成長しているセントラル短資オンライントレードは、そのビジネス規模の爆発的な拡大に対応し、またダウンタイムを極力短縮するなど高度な可用性を確保するため、データベースシステムをOracle 10g RAC EE on Linuxで刷新。あわせてインサイトテクノロジーが提供するソリューションを導入し、Oracle DB 10gの最適チューニングを施した。

業績の急激な拡大にともない システムの負荷は限界に近づく

セントラル短資オンライントレードは、インターバンク市場（銀行間市場）で仲介業務を行う金融グループ、セントラル短資グループの中でリテール（外国為替証拠金取引業）部門を担っている。グループで長期にわたって培ってきた金融市場での信用と実績をベースに、同社は、24時間インターネットおよび電話での取引、即日全額信託による預託金の保全、常に高水準でのスワップ金利の維持、投資通貨の豊富さ、為替マーケット情報の配信といった独自のサービスを展開し、業界内で常に1、2番手を争う位置につけて

いる。

同社営業本部メディア営業部次長の安藤謙太郎氏は、「特に急速な成長を遂げたのがここ2年間で、預託金の金額については年間約4.4倍、口座数についても年間約3倍という驚異的な規模の拡大が続いています」と、その成長ぶりを語る。

ただ、こうしたビジネスの急成長は、そのままオンライントレードを支えるシステムへの負荷増加をもたらしていく。同社がもともと持っていたシステムは、能力的にも機能的にも限界に近づいた。そこで2005年12月、同社はデルの2ソケットサーバ「PowerEdge 2850」（2台）ならびにSANストレージ「Dell | EMC CX500」をプラットフォームとし

てOracle 10g RACシステムを導入し、オンライントレードのシステム基盤を刷新した。

1秒でもサービスを止められない 将来の負荷増加にも備える体制へ

新しいシステム基盤のポイントは、可用性ならびに拡張性の向上だ。その背景を同社のCTOであり、取締役の永倉弘昭氏は、次のように語る。

「個人投資家保護は最優先課題です。すなわちシステムのトラブルなどでお客様に不利益をもたらさないことです。システムトラブルは、監督官庁である金融庁への報告が義務付けられています。こ



セントラル短資オンライントレード
取締役 システム事業部担当
永倉弘昭氏



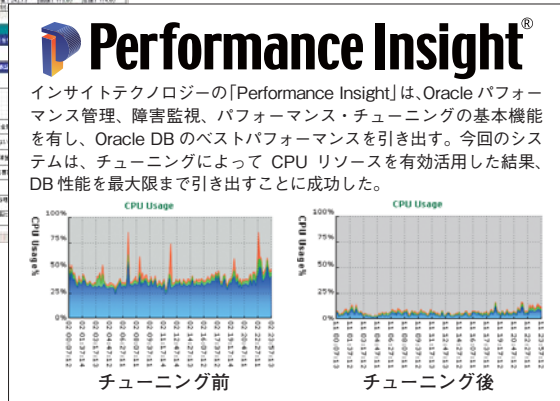
セントラル短資オンライントレード
システム事業部 次長
植田啓男氏



セントラル短資オンライントレード
営業本部 メディア営業部 次長
安藤謙太郎氏

項目	05/06 11:07	05/06 03:07	05/06 22:07	05/06 11:07	05/06 03:07	05/06 22:07
1. 売上高	15.60	15.63	121.72	121.77	1.3495	1.3500
2. 売上高(外貨)					1.9915	1.9923
3. 売上高(円)						
4. 売上高(円)						
5. 売上高(円)						
6. 売上高(円)						
7. 売上高(円)						
8. 売上高(円)						
9. 売上高(円)						
10. 売上高(円)						
11. 売上高(円)						
12. 売上高(円)						
13. 売上高(円)						
14. 売上高(円)						
15. 売上高(円)						
16. 売上高(円)						
17. 売上高(円)						
18. 売上高(円)						
19. 売上高(円)						
20. 売上高(円)						
21. 売上高(円)						
22. 売上高(円)						
23. 売上高(円)						
24. 売上高(円)						
25. 売上高(円)						
26. 売上高(円)						
27. 売上高(円)						
28. 売上高(円)						
29. 売上高(円)						
30. 売上高(円)						
31. 売上高(円)						
32. 売上高(円)						
33. 売上高(円)						
34. 売上高(円)						
35. 売上高(円)						
36. 売上高(円)						
37. 売上高(円)						
38. 売上高(円)						
39. 売上高(円)						
40. 売上高(円)						
41. 売上高(円)						
42. 売上高(円)						
43. 売上高(円)						
44. 売上高(円)						
45. 売上高(円)						
46. 売上高(円)						
47. 売上高(円)						
48. 売上高(円)						
49. 売上高(円)						
50. 売上高(円)						

セントラル短資オンライントレードが顧客に提供している情報、注文管理画面。



れに沿うかたちで、当社は厳しい管理体制をとっています。ダウンタイムが発生すれば、社内のコンプライアンス室に即時報告し、復旧作業と原因の徹底解明を行います。その厳格なシステム管理体制が、クレジット会社大手クレディセゾンとの提携、外国為替証拠金取引『《セゾン》外貨FX』の提供に結びつきました。システムダウンの影響は、当社に口座を持つ直接のお客様のみならず、提携先のお客様にまで及ぶため、24時間稼働のシステムにおいて、1秒でもサービスを止めることがあってはならないことを最低限の業務と認識しています

2005年12月、同社はシステムの核となるDBサーバにオラクルの「Oracle DB 10g」を導入するとともに、冗長化された2台のPowerEdge 2850サーバに対して「Oracle RAC 10g Enterprise Edition」(以降、Oracle RAC EE)を適用した。いずれかのサーバにトラブルが発生した場合でも他方が処理を代替して継続する、“アクティブ-アクティブ”のフェイルオーバーの仕組みを整えた。

そして2007年2月、このシステム基盤はさらなる拡張を遂げた。3台のPowerEdge 2950サーバをOracle RAC EEで連携させた冗長構成へと移行し、今後予想されるシステムの負荷増加にもスムーズに対応できる運用体制を強化した。

Oracle DBの最適化と安定運用を支える「Performance Insight」

同社システム事業部の次長を務める植田啓男氏は、上記のようなシステム基盤の導入ならびに拡張に際してデルを選択したメリットを、次のように評価する。

「当社のビジネスは非常に変化が激しく、口座数も日々増加しています。そうした中で、ベンダーに何よりも求めたのは、わたしたちの要求に対するクイックレスポンスです。デルはハードウェア製品の手配はもちろん、Oracle RAC EEの初期設計、保守サービス、サーバ移行

期間におけるストレージ代替機の提供など、あらゆる場面で十分なスピード感をもって期待に応えてくれます」

一方、Oracle DB 10gの安定運用やチューニングにおいて大きな貢献を果たしたのが、デルのパートナーであるインサイトテクノロジーだ。同社営業本部の高橋勇樹氏は、「Oracle DBのパフォーマンス管理や障害監視、チューニングのための基盤として『Performance Insight』というツールを提供させていただくとともに、弊社コンサルタントがお客様のDBの運用状況を徹底的に分析し、最適化を行いました」と振り返る。

セントラル短資オンライントレードのシステムは、今日までほとんどトラブルを起こすことなく安定した稼働を続け、トランザクションのピーク時にも十分なレスポンスを確保している。

もちろん、今後のさらなるビジネス拡大に対応するため、システムについては常に見直しをかけ、継続的な改善を図っていく必要がある。「現状では情報系システムと取引系システムのDBを同じOracle RAC EE上で運用していますが、そろそろこの2つのDBを分離すべき時期が迫っていると認識しています」と永倉氏は語っており、セントラル短資オンライントレードは次のステップに向け、着々と準備を進めている。

システム構成図

